

コンゴ民主共和国西部アルティメット選手権大会

参加レポート

環境情報学部 4年 大川晴

・ 概要

本報告書は、2013年12月7日～8日に行われた「コンゴ民主共和国西部アルティメット選手権大会」についての参加レポートである。私はこの大会にコンゴ民主共和国アルティメット・ナショナルチーム代表監督として参加し、大会の運営はもちろんのこと、選手の指揮、代表監督チームへの選抜を行った。なお、本大会は私が2012年より取り組んでいる「アルティメット普及プロジェクト」の一環である。（下記取り組み事例（1）参照）

・ 大会主旨

「コンゴ民主共和国西部アルティメット選手権大会」は、首都キンシャサのスタジアムマルディ（コンゴ最大のスタジアム）で行われた。当日はキンシャサのチームを中心として、コンゴ内各地より集まった8チームがトーナメント形式でしのぎを削った。

また、この大会での目的は3つ。（1）「アルティメット普及プロジェクト」2年目の集大成（2）“平和のスポーツ、アルティメット”の再定義（3）代表選手の選出である。



優勝チーム「KINBAMSEKE」



スタジアムマルディ

・ 取り組み事例

（1）「アルティメット普及プロジェクト」2年目の集大成

2012年2月より始めた本プロジェクトは、“平和のスポーツ”と呼ばれるアルティメットによって、コンゴ民主共和国の平和構築を行うものである。アルティメットとは、フリスビーを使った7人制の競技であり、一般的にアメフトやバスケットボールに似ていると言われる。その最大の特徴は“*No referee, No violence*”というところにあり、フェアプレーの精神が競技全体として試され

る。私はこのスポーツを、世界最貧国であり、未だに紛争国であるコンゴに広めることができれば、ひょっとしたら当国の体質改善に繋がるのではないかと仮説を立て実行しているのだが、この度、2年目の今年の最後の締めとして、「コンゴ民主共和国西部アルティメット選手権大会」を企画し、実行した次第である。

(2) “平和のスポーツ、アルティメット”の再定義

そして2つ目の目的は、このスポーツをただのスポーツとして終わらせないための大事なステップのひとつである。やってみて初めてわかることなのかもしれないが、スポーツの普及というのは、やり方次第で結果が大きく変わる。ただのスポーツとして普及をすればそれなりのものになり、平和のスポーツとして普及すれば、人々の生活が変わってくる。私が目指すのは後者であり、私が真に成し遂げたいことは、この国に希望の灯火を焚くことだ。したがって、本大会でも試合前には「Fair play, No violence」の精神を確認する時間を取り、また、試合と試合の間にミニワークショップを実施した。この模様はコンゴ全土にメディアを通じて発信され、今後の展開に大いに期待できるものとなった。

(3) 代表選手の選出

2016年のアルティメット世界大会へ向け、いよいよ今年からナショナルチーム創設に向けて動き出した。その一環で、本大会では試合を通じて選手の選抜を行い、目星をつける作業を実施。7名の候補を選出した。したがって、今後2014年にかけていよいよ政府と協働し、ナショナルチームの運営が始まる。

・ 謝辞

この度は、私の研究プロジェクトの一環でもある「コンゴ民主共和国西部アルティメット選手権大会」へのご支援、誠にありがとうございました。おかげさまで、とてもいい大会になりました。心より感謝申し上げます。



コンゴ民主共和国フライングディスク協会のメンバー



約100名の選手が参加し、大いに大会を盛り上げた